※令和４年度以降入学生用

学校番号	１００５

令和５年度　（学）国際教養

教科	（学）国際教養	科目	(学)古典芸能(能楽)	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

能は日本古来の舞台芸術です。芸術として根付いた背景には、日本の文化が深く関わっています。能を学びながら日本のことを見つめ直しましょう。また、世界を相手に働いたり、他国の人たちと関わるには日本を語れる人材である必要があります。

２　学習の到達目標

・基本的な謡の声、舞の姿勢を身に付ける。又、能を通じて日本文化の知識を得る。
・能が舞台芸術であることを実感し、伝わる表現が出来るようになる。又、体験を通してより深く日本文化に触れることにより、自分の言葉で日本を語れる人材になる。
・主体的に能を通じて日本文化を学ぼうとする態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・能を通じて日本文化の知識を身に付けている。 ・能に関する基礎的な技術を身につけている。	・能という舞台芸術を通じて表現することができている。 ・日本文化についての理解を深め、日本を語ることができている。	・積極的に能を学び、能を学ぶ過程で日本文化を学ぼうとすることができる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">学期</th><th rowspan="2">単元名</th><th rowspan="2">学習内容</th><th rowspan="2">単元(題材)の評価規準</th><th colspan="3">評価方法</th></tr>
<tr><th>知(a)</th><th>思(b)</th><th>主(c)</th></tr>
<tr><td rowspan="3">1学期</td><td>「猩々」謡と舞の稽古</td><td>能舞台の構造、姿勢、歩き方、声の出し方を実践を通じて身に付ける。</td><td rowspan="7">a: 能に関する基礎的な技術を身につけている。
能を通じて日本文化の知識を身に付けている。

b: 能という舞台芸術を通じて表現することができ、日本文化への理解を深めることで日本を語ることができている。

c: 積極的に能を学び、能を学ぶ過程で日本文化を学ぼうとすることができる。</td><td rowspan="3">ワークシート

発表</td><td rowspan="3">ワークシート

発表</td><td rowspan="3">ワークシート

行動観察</td></tr>
<tr><td>文化祭舞台発表への取り組み</td><td>内容理解に努め、表現に結び付けるようにする。</td></tr>
<tr><td>能楽堂での鑑賞のための事前学習</td><td>舞台発表への準備を通し、伝えるという事を意識出来るようにする。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2学期</td><td>能楽堂での鑑賞</td><td>自分なりの鑑賞のポイントを見つけ、感じたことを自身の舞台に結び付けられるようにする。</td></tr>
<tr><td>学内発表への取り組み</td><td rowspan="2">講座全員で取り組み、「神・男・女・狂・鬼」の、能の五番立て番組の完成を目指す。</td></tr>
<tr><td>3学期</td><td>学内発表</td></tr>
</table>

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度